

「めざしたい子どもの学び」と「主体的な学びを引き出す工夫」

学ぶ意欲

- 知的好奇心→おもしろい
もっと知りたい
- 有能さへの欲求→分かりたい
できるようになりたい
- 向社会的欲求→何かを実現したい
役に立ちたい

- 独立達成→自分の力でやり遂げよう
- 自発学習→自分からやってみよう
- 共同学習→友達と一緒に考えてみよう、やってみよう
- 深い思考→もっとよく考えてみよう
- 情報収集→調べてみよう
探してみよう
- 挑戦行動→少し難しいことにチャレンジしよう

- おもしろさ、楽しさ→おもしろかった
楽しかった
またしたい
- 有能感→できた、うまくいった
- 充実感→達成できた
誰かの役にたった

学習過程	主体的な学びの姿	低学年	中学年	高学年	主体的な学びを引き出す工夫	
学習の準備	学習に対する構えをもつ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習用具を準備してから休み時間 ○ 学習の開始時刻を守る ○ 教科によって自分でできることをする(音読など) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ノート等から、今までの学びを振り返る ○ 学習用具を準備し自分たちでできることを始める(準備運動など) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の学習の目標(めあて)、内容、方法を振り返る ○ 教科によって、前時とのつながりから本時の学習活動を自分たちで始める 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間を守る、学習用具を準備するなど、基本的な学習習慣を定着させる ・ 日直、学習係、進行係など、子どもの実態に応じて自分たちで学習を始めることができるようにさせていく 	
めあて	問題をみつけ、自分のめあてをもつ	<ol style="list-style-type: none"> ① 問題をみつける ② 自分のめあてをもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 提示されたことに対して、興味をもつ ○ 教師と一緒にめあてを考える ○ みんなのめあてを自分のめあてとしてとらえる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 提示されたことから、学びたいことや学ぶ動機をもつ ○ 教師や友達と相談しながらめあてを立てる ○ めあてを解決しようという切実感をもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の学習や社会的事象などから、学びたいことや学ぶ動機をもつ ○ 前時とのつながりや提示されたことなどから自分でめあてを立てる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの発達、興味・関心を把握する ・ 解決する価値と魅力ある問題を提示する ・ 問題そのものに対する知的好奇心、興味・関心、疑問、驚き、必要感、切実感をもたせる(外発的動機付けではなく内発的動機付けが大切) ・ 自分の姿を客観的にとらえさせることで、めあてをつかませる→「つまずき」を「めあて」に生かす ・ 教師の思いは大事だが、子どもと学習内容との関係を大切に考える ・ 前時の振り返りをめあてにつなげるようにさせ、思考の連続性を生み出す
見直し・計画	問題の解決のため、見直しをもち、学習の計画を立てる	<ol style="list-style-type: none"> ① 見直しをもつ ② 学習計画を立てる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既習内容や方法から、解決の糸口を話し合う ○ 教師と一緒に学習のゴールを決める ○ 提示された学習の流れが分かる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既習内容や方法から、解決の糸口をつかむ ○ 教師と一緒に学習計画を立てる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既習内容や方法から、解決方法を考える ○ 大まかな学習計画を自分たちで相談しながら立てる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既習の学習内容、学習方法の振り返りをさせる ・ めざす姿や形などを例示し、実現のための具体的な方法を考えさせる ・ 学習方法や解決のための具体的な支援策を示す(どの方法で学習するのかは児童に選択させる) ・ 活動計画表を提示したり、作成させたりする。 ・ 計画をもとに学習する経験を繰り返させる ・ 学習過程をシンプルにし、パターン化させる
実践	見通しや計画に沿って、今もっている力を存分に発揮して活動する	<ol style="list-style-type: none"> ① 自力で学ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・ 調べる ・ 挑戦する ・ 考える 等 ② 友達と学ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・ 交流する ・ 伝え合う ・ 話し合う 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今まで学んだことを生かして、自力で解決しようとする ○ 夢中になって活動する ○ 自分の思いや考えを伝える ○ 友達の考えや表現のよさをみつける ○ 分からないことを友達や教師に尋ねる ○ 尋ねられたことにこたえる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今までの経験を生かし、試行錯誤する ○ めあてに向かい、あきらめずにやり抜く ○ 試行錯誤の中でみつけた自分の気づきや解決方法を友達に伝える ○ それぞれの考えを比較し、よりよい方法を見つける 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 計画的に活動する ○ もっとできることはないか考えたり、新しいことや少し難しいことにも挑戦したりする ○ 自分の考えを筋道を立てて説明する ○ 相手の意図をつかみながら聞く ○ 互いの立場や意図をはっきりさせながら話し合う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもが安心できる場、支持的風土づくり ・ 試行錯誤の場の設定 ・ 自力解決を促す教材、教具の工夫 ・ 教科や単元の特性に応じて、多様な学習活動を取り入れる ・ 子どもの観察、理解と、適切な指導、声かけ ・ 活動時間の保障 ・ 互いに学び合う場の設定→学習過程のどこで、誰と、どのように行わせるか検討する ・ 友達(相手)が何をめあてに、どのような方法で学習しているのかを、互いに理解し合おうとさせる ・ 子どもの実態に応じて、学習形態(少人数、習熟別、課題別など)や指導形態(TTなど)を工夫する ・ 様々な思考ツール(ウェビングマップや座標軸など)や情報を可視化するための付箋紙やホワイトボードを活用する
振り返り	活動を振り返り、次への展望をもつ	<ol style="list-style-type: none"> ① めあてに対してまとめる ② 学び方を振り返る ③ 次時への展望をもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師と一緒に、キーワードを入れながらまとめる ○ 教師と一緒に、学び方を振り返る ○ 学習の感想をもつ ○ 次の学習を楽しみにする 	<ul style="list-style-type: none"> ○ みんなでキーワードを確認し、自分の言葉でまとめる ○ みんなと一緒に、学び方について振り返る、 ○ 次の学習へ向け、めあてをもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習内容を自分でまとめる ○ 学習方法(プロセス)を振り返る。 ○ 誰のどんな考えで学習が進んだか、失敗の理由などが分かる ○ 次の学習へ向け、めあてや見直しをもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りの時間の確保 ・ 振り返りの視点の提示(感想、分かったこと、友達のよさ、困ったこと、次したいこと など) ・ 次時へのつながりを意識化させる ・ 日記の活用 ・ 失敗の理由(解決方法、解決時間、解決のための努力に問題があるのか、めあてが自分にあっていないのか)を考えさせ、めあてや学習計画の見直しをさせる ・ 自分の伸びやよさを感じ取ることができるように、個に応じた言葉かけをする ・ 学び方でよかったところを認めたり全体で紹介したりする ・ 付箋紙やノートへの書き込みなどで、相手のよい面について相互評価をさせる